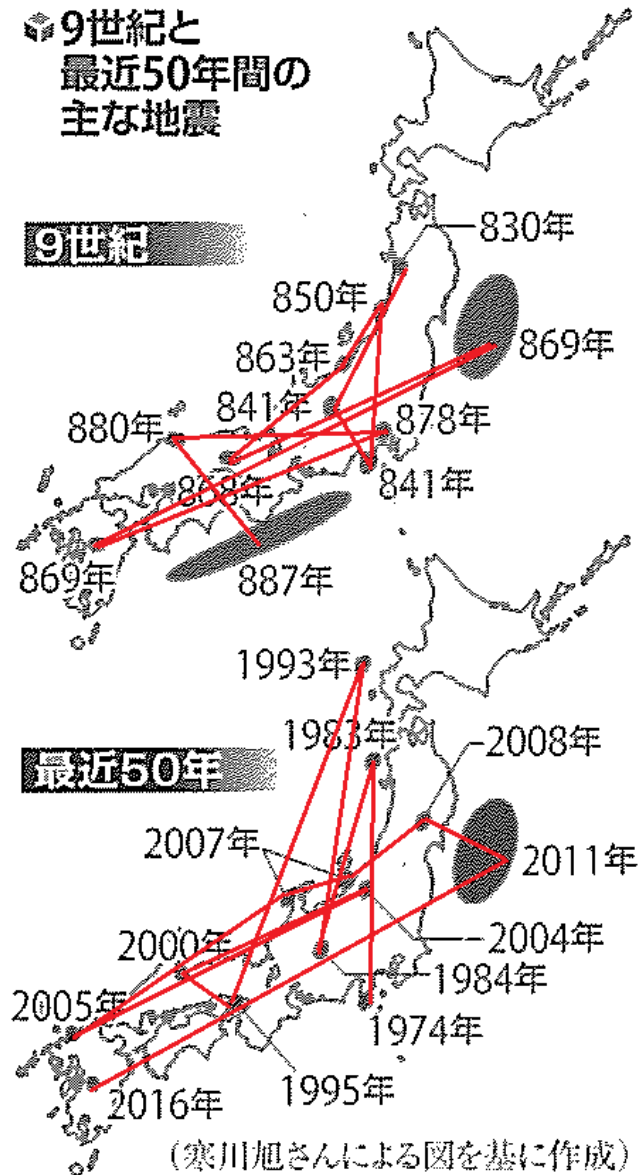


2016 長月の夢 3 切抜「遺跡が語る震災 1(読売新聞,2016 年 9 月 7 日)」追補

読売新聞 2016 年 9 月 7 日 12 版 文化欄の記事「遺跡が語る震災 1」に掲載された図「9 世紀と最近 50 年間の主な地震」は、産総研・名誉リサーチャー 寒川旭さんの発見「9 世紀と、現代の最近 50 年の主な地震の発生場所を地図で比べると、傾向がよく似ている」というご指摘に沿って図化されたものです。その図上で、地震発生場所を時系列に沿ってなぞり、朱色の実線として次に示します。



科学には法則性、規則性があり、地震発生には応力解放の順番らしきものがあるという風に捉え、時系列に沿って地震発生場所をなぞってみると、ENE-WSW 軸と N-S or NNE-SSW 軸が卓越して見え、振子のように振れています。二つの軸は、西日本及び東日本、それぞれの地形の軸方向に重なっており、これは当然の帰結なのでしょうか。今ひとつ気になる軸は、NW-SE 軸で、ユーラシアプレートとフィリピン海プレート、北米プレートと太平洋プレート、それぞれの境界領域で発生した海溝型地震と関連して見えます。どのような作業仮説が導かれるのでしょうか？ (文責 アーキジオ春秋)